

がっこうからいえまで あるいてみよう

—特別支援学級児の空間認識



※これは前年度の実践です。文中の「今年」とは2014年度を指します。

宮城県歴教協

鈴木 宏之（元仙台市立燕沢小学校）

・はじめに

燕沢小学校は仙台市宮城野区にある学年 2 クラスの中規模校である。利府街道が通り、その周辺は商店が並ぶがあとは住宅地である。校歌に「丘の学校」とあるように、学校は利府街道から坂を上ったところにある。地域住民の要望で学校が建てられてから、今年度は 40 年になった。

自分は本校に 1 学級ある特別支援学級の担任になって 3 年が経った。毎年現職教育として校内で授業提供を求められてきたが、今年度は市教研・特別支援部会の授業研究にもあたっていた。どうせなら児童にとって 1 番課題になっていることに取り組もうということで、自力登下校をテーマにした。生活単元学習だが、これはこれまで自分がやってきた社会科とも関連している。そこで単に自分で歩けるという技能だけでなく、学区を知ること、地図として認識することをベースにして単元を設定した。

尚この単元の計画や指導に当たっては、市教研の事前検討会・歴教の 10 月仙台例会・校内での特別支援部の検討会でいろいろ教えていただいた。

I 児童の様子と単元の設定

本学級は、4 年生男児・情緒障害児 1 名（A 児）と 4 年生女児・学習障害児 1 名（B 児）、計 2 名の学級である。

A 児は…口頭で

B 児は…口頭で

A 児は朝起きてなかなか直ぐに気持ちが学校に向かわないため、家庭での配慮があって、結果的に始業時刻前後に車で登校することが続いている。しかし学校までの距離を歩くことは可能で、行く行くは安全に注意し、道も覚えて、自立して登下校することが必要になってくる。更に将来的には、いろいろな人と関わりながら地域で生活することになる。「地域の中で生活できる」ということは、成人後も含めて大きな課題であり、自力登下校は地域を知ることの第一歩になると考えた。

自力で校外を歩くことについては次のⅡにまとめたように、これまで少しずつ取り組んできた。また A 児の家庭生活の様子を聞くと、休日には公園・博物館・イベントなどに連れて行ってもらう校外を歩くことには慣れている。更に学区の運動会やお祭りにも参加して地域との交流を広げている。こうした蓄積を一步進め、自力登下校に必要な知識と技能を身につけるために本単元を設定した。

内容的には学校から家までの目立った建物や畑を知ることと、交通ルール・地域の人との挨拶を身につけることの 2 点を中心としている。単元の学習の後、実際の自力登校に向けての更なる実践を検討していく。

B 児については登校していた時は自力で登下校していたという。現在はまだ学校の回りの様子や登校コースが十分わかってはいない。本単元は学校や地域に慣れるために役立つものとする。

Ⅱ 単元の指導に当たって

本単元を指導するに当たり、単元のねらいと児童の障害特性に応じて次の3点に配慮して指導していくことにした。

1、場面や状況がなるべく直感的にわかる教材を使い、関心が持続するように構成する。

A児は長い説明や繰り返しの質問には興味を失いがちになる。そこで視覚や聴覚によって直感的にわかる教材で指導内容が理解できるように努める。

そして言葉によるコミュニケーションが取りにくいという実態に応じて、児童の表情や動きから意欲や理解度をつかみ、用意した学習内容を柔軟に取り扱う。

2、具体的に体験させることで理解を深めさせる。

学校から家まで一人で実際に歩くのに必要な知識と技能を身につけさせるために、具体的な体験を重視する。

単元の前半では見学を通して、地域の（本単元では登校コース上の）にどのような施設や店があるかを体験的に理解できるようにする。

後半では模擬道路を使って、自分で歩くことを体験できるようにする。そして最後に実際に校外に出て、通学路を歩く機会を設ける。

3、安全の確保

保護者にとっても自力登下校の不安の一つは「危険はないか」ということであろう。事故を未然に防げるよう、どの指導段階でも安全の確保を第1の注意事項に置く。児童の安全への理解度を良く観察し、指導過程全体で安全に関する知識が持てるだけでなく、実技を通して実際に安全に歩行できるように指導していきたい。

・単元目標

(1) 学校から家までにある公共施設、店、土地利用、交通の様子を理解し、一人で歩くために必要な知識を身につける。

(2) 道で出会う安全ボランティアの方などとの接し方や、必要な交通ルールを身につける。

II 本単元に入るまで

	指 導	様 子	その他の取り組み
1年～ 3年1学期	朝：車で送られてくる。月1回程度天気の良い日に保護者と歩いてくることがあった。	歩いてくる様子は普段通りで、嫌がる様子は無かった。	町たんけん（学年） 地下鉄にのって（学年）
	帰り：車で迎え	空腹であり、好きなおもちゃで遊びたいらしく、早く帰ろうとしていた。	
3年2学期	朝：校門前の道路を挟んだ向かいの駐車場で車を降りて、一人で横断してから担任と学校に入る。	一人で横断にはすぐ慣れた。なかなか止まって右左確認ができなかったが、回数を重ねるうちに気をつけるようになった。	学区地図作り（学年） SEUYU 見学（学年） SEIYU 買い物（学級）
	帰り：車で迎え	体が大きくなってきたためか、車の中でおやつを食べる様子が見られた。	
4年1学期 ～	朝：3年2学期の同じ。	すっかり慣れたが、注意確認はまだ十分ではない。 危ない場面はこれまで無かった。	バスで学区外に見学に来ることが増えたため、学区を歩くことはこれまでより減った。
	帰り：週一回、交流学級の帰りの会に参加し、そのまま一緒に歩いて帰る。担任が付きそい。	このことを嫌がることは無く、毎週行ってきた。児童の「予定」にも入った様子。 はじめは歩きながら児童から手をつないできたが、次第に放すことが増えた。 担任から4年生児童と一緒に帰ってくれるように頼むことはしていないが、自然に4年生と歩くこともある。	



毎年の行事として：四校合同学習のため鶴谷東小、西山小往復（学級）
 作品展見学のためメディアテークまで交通機関も使って往復（学級）
 生活科・総合の生産活動として地域の畑に年数回往復（学年）

Ⅲ 指導計画

大単元	小単元		内 容
「がっこうからいえまであるいてみよう」 (11時間)	1次	がっこうからいえまでのあいだにあるものをみてこよう。(6時間)	コミュニティーセンター、児童館、商店などを見学し、どんな所かを知る。建物の模型を作るなどして特徴をつかむ。 ① 児童館（2時間） ② コミセン（2時間） ③ 商店（2時間）
	2次	おおきなちずをつくって、あるいてみよう。(3時間)	音楽室や体育館に大きな地図を作り、模擬道路で通学路を確かめて、そこを実際に歩いてみる。 ① 音楽室で（校内研授業 1時間）10月29日 ② 体育館で（市教研授業 1時間）11月12日 ③ 体育館で（T2に来てもらって 1時間）
	3次	がっこうからいえまで、じぶんであるいてみよう。(2時間)	教員が登下校コースの要所に立ち、その間を自分で歩いて、学習したことが身に付いたか確かめる。 事前指導（1時間）と実際の下校 2回 12月5日、12月12日

Ⅳ 2次の指導

1、小単元名 「おおきなちずをつくって、あるいてみよう。」

2、ねらい

- ・ 模擬道路上に建物などの模型を置き、大きな地図を作ることができる。
- ・ 道で出会う人との挨拶ができ、必要な交通ルールを守って模擬道路を歩こうとする。
- ・ 指示を聞いて、準備やかたづけをする。 ・ 関心を持って最後まで取り組む。

3、評 価

【関心・意欲・態度】 関心を持って地図づくりや道路歩きに取り組めたか。

【技 能】 挨拶をしたり、交通ルールを守ったりして、自分で歩こうとしたか。

【知 識】 通学路近くにある建物などがわかり、その大体の位置を地図で示すことができたか。

4、本時（2次の2時間目）の指導観

第1次で3か所の見学を行ったが、どの箇所も、関心を持って会話をしたり、遊んだり、買い物をしたりすることができた。また事後の模型作りなどでもその建物の名前を覚え、識別することができた。

ただ、模擬道路上に建物などを置くという、場所の認識は本時で2時間目になる。更に体育館をに模擬道路を設定し、より広がりのある地図にするのは本時からである。第1次で得た知識と、前時の学習を生かして一層確実な空間認識につなげていきたい。また関心を持って取り組めることは第1に重要なことになるので、教具を活用し、児童の実態に合わせて指導過程を柔軟に扱って授業を進めたい。

これまで見学の様子や今後の予定について家庭と連絡を取り、理解を得てきた。本時についても模擬道路を歩くことを伝え、家に着いた時のお迎えの言葉を録音させてもらった。お家の方も応援していることを児童に伝えていきたい。

V 指導過程と授業の実際（2次の2時間目）

→6 ページから

VI 事後の検討会

<市教研検討会で>

1、 自評

- ・指導案からの変更あり。一人欠席でA児がB児の分もやった。
- ・模擬道路上に正しく模型を置いていたのは、2週間前の前時でそこを理解していたためであった。
- ・指導のミスがあり、人の確認を忘れてあとでやった。
- ・なかなか自分では客観的に見られないので今日はたくさん意見をいただきたい。

2、 話し合い

- ・不審者が出るようになってから、自分は一人登下校をさせていない。
- ・挨拶や左右確認が形式的になっていないか。ボランティアさんに頼っている。
- ・安全確認は替え歌にしてパターン化してはどうか。
- ・車も不審者も模擬として失敗する体験も大事。ぶつかったらこんなに大変だ。だから止まらなくっちゃ…等
- ・最後の自己評価は三つ一度に出せるようにしたほうが児童の達成感があるだろう。

3、 感想用紙

- ・たくさんの参加者がいる中で、子どもさんはどんなにか緊張したでしょうが、最後まで意欲が継続して頑張ることができた様子が見られました。
- ・児童の安全教育や地域を知る学習は今後生活していくうえで必要になる学習であると思う。

学校側の視点だけでなく、地域にも知ってもらうことが同時に必要なので、学級や児童のことを発信していくことも大切だと思う。

- ・本時での学びはこの単元だけでなく外に出たときに常に生かすことができるものだと思う。検討会で出たように、繰り返し学びが深まるような工夫が必要だと思う。
- ・この模型を使って交通教室もできそう。そこで下級生に向けて本児童がお手本を見せるような場面も作れるのではないか。次年度以降も継続し入級してくる児童に本児童が教えることもできそう。

<校内研究授業で>

- ・下校コースの目印になる建物やそこにいる地域の方の顔をしっかり覚えていたようなので、自力下校に向けて着実にレベルアップしているのではないか。
- ・もう少し道幅を広くとれるのであれば右側通行も意識させられるのではないか。交通ルールも教えられる。
- ・車が通過する場合の待ち方はもう少し経験させたい。
- ・評価に「ボランティアさんとお話できましたか」をいうものもあればよかったのではないか。

VI 3次、そしてこれから

1. 3次の実践

<3次の1回目> 12月5日(金)

交流学級の帰りの会に参加。さよならをしていよいよ下校。この日は一緒に帰ろうという子はいなかった。一人目の教員は校門を出てすぐ見えるのでどんどん歩いて行った。シールをもらた後、コースは曲り、教員は見えなくなる。ここで大きな声で「〇〇せんせい、どこー!」と呼んだ。しかし涙ぐむ様子もなく歩いて行ったので担任はそのまま見つからないように後ろからついて行った。

しばらく一人で歩いて、横道にも入らず、二人目の教員のところに着いた。この教員は毎日のようにA児と話している。この時一人で歩いてくるA児を見て、感激したと話してくれた。(このことは月曜にA児に伝えた。この日の家庭からの連絡…

「一人で帰る日」ご協力ありがとうございました。「シールいっぱいになったよ」と見せてくれました。生まれて初めて一人で帰宅した記念日となりました。

<3次の2回目> 12月12日(金)

角を曲がると、道路沿いの家の駐車場に車が入るところだった。A児は一人でもその車が入るまで手前で待ち、車が入ってからまた歩き出した。練習していない場面でもちゃんと判断していた。もっと先に行ってから5年生グループがふざけていて、一人のランドセルが道に置かれていた。A児は迷わずそのランドセルを拾い上げて前を行く5年生に渡した。5年生から「A君、やさしい」の声。いつも担任という学校とはまた別の関わりが生まれるように感じた。(時には困った関わりが生まれるかもしれないが…。)

この日の家庭からの連絡…

金曜日は笑顔で帰宅しました。シールも子どもが好きなものを選んでいただきありがとうございました。

2、その後の実践

元々日常的な自力下校を目指した取り組みである。この後も毎週金曜日は「ひとりでみんなとかえるひ」（それまでは「担任に連れられて皆と帰る日」だったので、こう呼ぶことにした）として交流学級でさよならをした後、そのまま一人で帰ることにした。担任は児童に気づかれないように離れて付いていき、安全確保にあたることで家庭の了解を得た。家庭でも児童によく話をしてくれて、出発のときは多少不安そうな顔を見せたが、校門で担任と「さよなら」をしてから難なく家まで間違えずに下校した。この取り組みも回を重ねるうちに、いくつかの特徴的な出来事があった。

〈1月30日・作品展の帰り〉

作品展に行って随分歩き、そのうえ道には雪が降り積もっていたがA児はそれも苦にせず一人で家に向かった。もうすぐ着くというとき、家の隣で雪かきをしていた方に何か話しかけていた。後でその方に何うと、挨拶をしてくれてその方も返事をして少し会話が合ったとのことだった。こうした臨機応変な関わり方ができることがわかる出来事だった。

〈2月初旬〉

自宅への最後の角を曲がった後、この日は家の前で4年生二人がA児の家の前で心配そうに見ていた。担任に気づき、「A君、家に入れなみたいで困っているよ。」とのことだった。この日はたまたま道が混んで外出していた保護者の帰宅が少し遅れたのだった。

この件は、本当に一人の下校になったときは学校から出るとき家庭に電話連絡したり、児童に鍵の開け方を教えたりしなくてはいけないと考えさせられた。それにしても、たまたまとはいえ心配してくれる児童がいて、その子たちは通り過ぎるのでなくそこで待っていてくれたことは心強い出来事だった。

〈2月23日・「ひとりでみんなとかえるひ」を週2日に増やした初日〉

このころには一人で帰ることに慣れ、校門に行く前からにこにこして担任に「さよなら」をして歩き出す様子が見られるようになっていた。この日は4年2組のクラスの子が校門を出てすぐに話しかけてきて並んで帰って行った。どうなるかと見ていたら、とうとう家に着くまで二人は何やら葉を交わしてA児の家の前で別れたようだった。このことを知らせた後の家庭からの連絡…

月曜日の一人で帰る日、ありがとうございました。「毎日帰れる？」と聞いたら、「ウン！」と言っていました。楽しかったようです。

3. まとめと今後のこと

・ **基本的に自力下校ができるようになった**…担任が後ろから付いて行っているが、保護者の帰宅が遅れたとき以外声をかけなくてはいけないことはなかった。


・ **空間認識への興味?**…その後、隣の西山小に歩いて行った帰り、担任が道を間違えたときがあった。その時A児から「道違うね」というつぶやきがあった。この単元の学習をするまでは無かったことで、「道」への興味を感じさせられた。


・ **次の段階は担任の付き添いをなくすことだが**…児童だけで下校すると、いつも担任が近くにいるときはまた別の周囲との関わりが生まれてくる。これまで前向きなことを挙げてきたが、機会が増えれば時には困った関わり（からかい、いたずら等）が生まれることもあるだろう。そうなったときどうしたらよいかはよく考えなければいけない。


・ **B児が参加してこそ**…結局B児はこの学年では登校しなかった。A児とB児のための本指導計画は残念ながら、今もって完結できていないと言わなければならない。そうした面を含めて、本単元で使用した教材は次年度の担任に引き継いでいきたい。

V 指導過程（2次の2時間目・市教研・体育館）

担→担任 児→児童

過程	学習の流れ	働きかけと児童の活動 ・留意点	準備物	授業の実際		
導入	<p>1,はじまりのあいさつ。</p> <p>2,DVDを見ながら、通学路周辺の建物などを、思い出す。</p> <p>3,本時のねらいを確かめる。</p>	<p>担「これから5時間目の授業を」児「はじめます。」</p> <p>下校時のDVDにそって、立ち止まりながら場所を確認する。</p> <p>【A児】 学校—児童館—コミュニティーセンター—お墓—山三商店—畑—お家</p> <p>【B児】 学校—階段—ビニールハウス—復興住宅—お家</p> <p>・言いにくいものについては簡単な名前に置き換える。</p> <p>・一つ一つ板書して確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>おおきなちずをつかって、あるいてみよう。</p> </div>	<p>下校時のDVD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A児のコース ・ B児のコース  <p>「この写真はどこ？」音楽室で</p>	<p>1,B児欠席</p> <p>2,DVDで答える</p> <p>学校→「がっこう」 児童館→「じどうかん」 コミュニティーセンター→「きゅうきゅうしゃ」（実際有る） お墓→「おはか」 山三商店→「やまさん」 畑→「はたけ」お家→「おうち」</p> <p>3,本時の課題</p>		
展開 ・ 前 半	<p>4,おおきなちずをつくる。</p>	<p>担任が地図上に家と学校を置いて地図の全体を確認する。</p> <p>一つ一つ段ボール模型を取り上げ、何であるか確かめたあと、児童が模擬道路上に置いて地図を作る。</p> <p>担「これは何かな」 児「〇〇〇です。」</p> <p>担「これはどこにあったかな。その場所に置いてみよう」 児 実際に置いてみる。</p>	<p>模擬道路 段ボールの建物</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【A児】</p> <p>家 学校 コミセン 児童館 山三 墓地 畑</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <p>【B児】</p> <p>家 学校 階段 ビニール ハウス 復興住宅</p> </td> </tr> </table>	<p>【A児】</p> <p>家 学校 コミセン 児童館 山三 墓地 畑</p>	<p>【B児】</p> <p>家 学校 階段 ビニール ハウス 復興住宅</p>	<p>4,地図作り</p> <p>学校「がっこう」担任が置く 家「おうち」正しく置く 児童館「じどうかん」正しく置く コミセン「コミセン」正しく置く お墓「おはか」正しく置く 山三「コーラ」（自販機） 「やまさん」正しく置く 畑「はたけ」正しく置く</p>
<p>【A児】</p> <p>家 学校 コミセン 児童館 山三 墓地 畑</p>	<p>【B児】</p> <p>家 学校 階段 ビニール ハウス 復興住宅</p>					

	<p>5,そこにいる人 を確かめる。</p> <p>6,挨拶と交通ル ールの確かめ</p>	<p>・迷ったり、大きく違っていたりした場合 家と学校を元に、どちらに近かったか、何の次にあつ たか。家に向かって道路の右か左かななどを問いながら 正しい場所を探して置いていく。</p> <p>写真をみて名前といる場所を確認する。 担「この人は誰かな」 児「〇〇〇です。」 担「どのにいたでしょう。いた場所に置きましょう。」 児 実際に置いてみる。</p> <p>安全ボランティアさんを紹介する。 お互いに自己紹介する。 【挨拶と横断の練習① 朝のつもりで】 ボ「おはよう」 児「おはようございます」 ボ「気をつけて渡るんだよ。」など 児：「はい」 実際に確認して渡る動作をする。 【挨拶と横断の練習② 帰りのつもりで】 ① と同じ、途中自動車が近づく。</p>	<p>右左カード</p> <p>写真</p> <table border="0"> <tr> <td>【A児】</td> <td>【B児】</td> </tr> <tr> <td>児童館山</td> <td>復興住宅</td> </tr> <tr> <td>三</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミセン</td> <td></td> </tr> </table> <p>ボランティアさん 実際の横断歩道の写真 「止まって右左」のポスタ 朝マーク 昼マーク 模型の自動車</p>  <p>自動車が近づいてきた</p>	【A児】	【B児】	児童館山	復興住宅	三		コミセン		<p>5,人と場所…実際には7の後にやった 児童館の大沼さん「やまさん」 正しく置く コミセンの大西さん 「おおぬまさん」正しく置く 山三の山三さん「やまさん」 正しく置く</p> <p>6,挨拶と交通ルール</p> <p>① 朝 ボ「右見て左見て横断歩道を渡 りましょう」 A 渡る ボ「よくできました」</p> <p>② 帰り A 車近づくのに渡ってしま う。→やり直し。手を挙 げ左右見る。 「こんにちは」</p>
【A児】	【B児】											
児童館山	復興住宅											
三												
コミセン												
<p>展 開 ・ 後 半</p>	<p>7,模擬道路の上 を歩いてみる</p>	<p>学校から家まで、児童だけで歩いてみる。 ボランティアさんがいるところでは挨拶をする。 車が近付いてきたら止まる。 家に付いて玄関のベルを鳴らし、問いかけに答え たら終わり。</p>	<p>ランドセル お家の方の「おかえりなさい」と問いかけの録音</p>	<p>ボ「お帰りなさい」 A 渡る。</p> <p>7,模擬道路 ランドセル背負って 横断歩道1：正しく渡る シール 〃 2：車が行った後渡るシール</p>								

		<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、安全確認ができたか確かめ、その都度自分でカードにシールを張る。（4か所） ・時間があったら家から学校に歩いてみる。 	<p>できたよカードとシール</p>  <p>商店の模型と店の人</p>	<p>ボランティアさん：あいさつシール 横断歩道ない道：そのまま渡ろ出してやり直し。シール お家「お帰りなさい。今日は学校頑張りましたか。」 A「がんばりました」 お家「はい、御飯です。」 A「やった！」※下に続く</p>
終末	<p>8,振り返りをする。</p> <p>9,片づけをする</p> <p>10,次時の予告</p> <p>11,終わりのあいさつをする。</p>	<p>もう一度も大きな地図を見て 担「大きな地図が作れたかな」 「一人であるけたかな」 「ボランティアさんに挨拶できたかな」 児 とてもよくできた・できた・できなかった …からそれぞれ選びカードをはる。</p> <p>・時間のあるときは担任と児童で模擬道路を使ったすごろくをして楽しむ。</p> <p>担任と一緒に模型などを片づける。</p> <p>担「体育館でもう一度歩いた後、本当にお家まで一人で歩いて帰ってみます。でも危なくないようにお手伝いしますから大丈夫です。」</p> <p>ボランティアさんにお礼とあいさつをする。 担「これで5時間目の授業を」児「終わります。」</p>	<p><授業の実際> とてもよくできた とてもよくできた とてもよくできた</p> <p>実施せず。</p> <p>担任と半分ずつ片づける。</p> <p>A「ありがとうございました」 ボ「たいへんよくできました」</p>	<p>担「Bさんのほうもあるんだけど。」 BさんコースのDVD 階段→「かいだん」 ビニールハウス→「はたけ」 復興住宅→「おうち」 お家→「Bさんのおうち」 担「この途中に一人いるんだけど」 警備員→「キング・シーサー」 どこにいるの→「ふっこうじゅうたく」 地図を作る Bさんの家：途中に置いてしまう。 階段：近くに置く。 復興住宅：道の反対に置く。 ビニールハウス：階段の後ろに置く ボランティアさんを警備員役になってもらい、歩いてみた。</p>

